

English Garden 第48話

"Since wars began in the minds of men,
it is in the minds of men that the defences of peace must be constructed."

"UNESCO Constitution" No.1

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」
「ユネスコ憲章」その1

ユネスコ憲章前文の冒頭を飾る有名な言葉です。これは1945年11月、ロンドンで開かれたユネスコ(国際連合教育科学文化機関)設立会議で、当時のイギリスの首相アトリーが行った演説中の言葉を取り入れたものと言われています。しかし、この言葉のもとになったのは、新約聖書「ヤコブの手紙」4章の「戦いや争いの原因は人の内部で争い合う欲望である」という一節でした。アトリー首相の演説の内容は、さらに次のように前文に生かされています。「相互の風習と生活を知らないために、人類の歴史を通じて、世界の人びとのあいだには疑惑と不信が起こり、それがしばしば戦争の原因となった」



なお、ユネスコ憲章前文は、アトリー首相と、アメリカ代表として参加した詩人のマクリーシュによって書かれたということです。

ユネスコ創設の気運が高まったのは、第二次世界大戦の最中でした。本国をドイツに占領されてロンドンに亡命政府を置くことを余儀なくされていたベルギー、オランダなどヨーロッパ7カ国の指導者は、戦争による犠牲、とくに教育の荒廃に心を痛めていました。そこで、1942年、戦局はまだ連合国側に不利な状況にありましたが、イギリスの呼びかけで連合国文部大臣会議をロンドンで開くことになったのです。この文部大臣会議はその後ひんばんに開かれ、次第にヨーロッパ以外のアメリカ、ソ連、カナダ、中国、インド等も参加するようになりました。

1944年になると、国際連合創設の動きが具体化し、国連憲章の草案の大綱が固まって、教育や文化を扱う国連機関の必要が提起されました。そこで、もともとはヨーロッパの教育復興を目指した連合国文部大臣会議は、それまでの構想に手を加えて、恒久的な教育文化機関を国連の専門機関として設立することにしました。

1945年11月、国際連合教育科学文化機関設立のための会議がロンドンで開かれました。国際連合はすでにこの年の10月にスタートしており、このロンドン会議には国連加盟の51カ国のうち44カ国の代表が出席しました。憲章の審議にあたって各国代表は、日本に使用された原爆の悲劇を思い起こし、科学が平和のために使われなければならないことを決意して、この新しい機関で科学も扱うことに決めました。こうして国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)憲章が採択されました。

ユネスコ設立総会の際、フランス代表はユネスコ本部をパリに置くよう積極的な誘致運動を展開し、大多数の賛成を得ました。そこでユネスコ憲章の発効を待って、第1回ユネスコ総会は1946年11月にパリで開催され、初代事務局長に生物学者のジュリアン・ハクスレーを選出、本部をパリの旧マジェスティック・ホテルに置くことにしました。

現在のユネスコ本部ビルは、ル・コルビュジェを総顧問に、米・伊・仏の三人の建築家の設計により1958年11月に完成しました。このビルは上から見るとY字型をしており、当時としては斬新なデザインとして評判になったものです。

参考文献:

「ユネスコで世界を読む」日本ユネスコ協会連盟編、古今書院刊、1996年。

「ユネスコ 50年の歩みと展望」野口昇著、シングルカット社刊、1996年。